

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	ViLLAiN		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.540	△RG	0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール		

**テストボール：ViLLAiN**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番

**比較対照ボール：COVERT REVOLT**

フレアーの幅  インチ

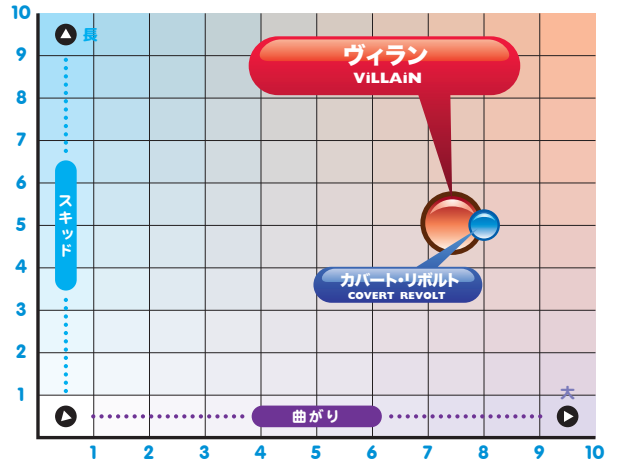
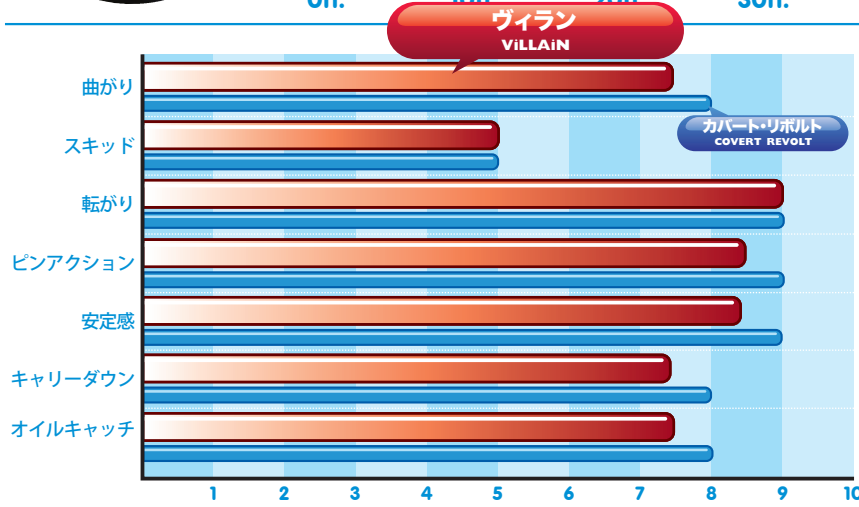
PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

MOTIV社の中で最もポピュラーなボールと言えばJACKALとREVOLTでしょう。そのREVOLTがMOTIV社でフルモデルチェンジをします。その名は”VILLAIN”。JACKAL GHOSTのCoercion CoverのMFS SolidバージョンでCoreはCRUELで使用されていたSinisterを採用させています。伝説とされているMOTIV社と聞けばREVOLTと言っても良いほど代表的なボールを今回フルモデルチェンジするMOTIV社の意図とは。テストングで得た感想を届けたいと思います。

まず一番気になったのは久々にお目見えしたSinister Coreで、CRUELに使用されていた経緯から”大きくネジれる”イメージがあります。それにGHOSTのCoercionのMFSですので動きが大きいことだけは投球前から予想がつかました。

あとは”どれぐらいのスキッドがあるか”で曲りのイメージも変わります。実際投球してみると3000Grit LSSの表面加工でも思った以上にMid Laneの越えてスキッドがあるのを感じました。TRIDENT QUESTやLETHAL PANANOIAをみても分かるように最近のMOTIV社のボールはスキッドしながらもキャッチを伴ってはいけるのですが、以前よりもブレーキがやや遅れてかかる傾向が見られますが、このVILLAINもCoercion MFSならではの言うべきか、表面加工まで考慮させながらキャッチを先行させずにしっかりとMOTIV社の中でのカテゴリー別に住み分けをできているのはさすがです。REVOLTのVanquish CoreからSinisterに変わったことで、私のイメージではREVOLTのMidで一回止まる感じから緩やかにポケットまで吸い込まれるイメージが、Midから後半の動きがかなり協調されているように思います。これはパワーバランスが後半にでている為で、投球してみて曲りがやや遅めに感じるようであれば、Box Finishからやや粗目の加工を施すことで、使用の範囲を格段に上げられることができるのが多様性VILLAINの最大の武器と言えるでしょう。

### 特記事項

発売前から北岡プロのテストドライブで早くもパーフェクトゲームが達成されています。**REVOLT**に変わる**第一弾のVILLAIN**の性能を是非どのお手でお試ください。